3章　参考資料

1　セミナーの概要

セミナーの趣旨

本調査研究では、調査研究の一環として、既存学校施設の有効活用の視点・手法を広く認知してもらうと共に、各自治体が抱える整備課題について、「みんなの学校をながく・よく使い続ける」観点から多角的に議論する機会として、セミナーを企画・開催しました。

すでに既存学校施設を有効活用している３つの事例を会場に、行政担当者、教育関係者、PTA・地域団体関係者、建築関係者、学識研究者等、学校に携わる234名の方々に参加頂きました。

セミナーの会場とテーマ

開　催　地	会　場	開　催　日　時	テ　ー　マ
長野県南木曽町	南木曽会館	１月22日 13：30～17：00	地域全体で考える学校づくり
京都府京都市	京都府総合教育センター 永山記念ホール	２月1日 13：00～17：00	地域交流の場を持つ学校づくり
神奈川県小田原市	三の丸小学校 ふれあいホール	２月10日 13：30～17：00	リニューアル整備計画に基づく 学校づくり

南木曽町セミナー報告

テーマ『地域全体で考える学校づくり』

＜南木曽町の取り組み＞

人口5391人、3小学校、1中学校を有する過疎化の進む町における中学校の改築計画。計画当初は、全面改築を検討していたが、一部既存施設を有効活用することとなった。今回の整備では、計画段階から施工段階に至るまで地域住民を含めた検討組織の意向を整備に反映している。平成16年度より、校舎改築。平成17年度より既存校舎の大規模改造予定。

＜意見交換会での主な意見＞

○ 地域の人たちがみんなの学校を有効活用していくにはどうしたらいいのか
○ 地域と一緒になって、地域特性を含めて学校計画・建築を行った事例について
○ 学校つくりから始める地域整備について
○ 耐震化の推進など今後の学校施設整備のあり方について
○ 生涯学習の場としての学校施設の活用について
○ 生涯学習についてまちの声、話題や課題について
○ 地域とうまく連携しながら学校施設計画を進めていく方法について
○ 学校図書館の地域開放の実態並びに手法について
○ 北欧の事例紹介及び既設学校施設の有効活用に関する論点の整理
○ 余裕教室・廃校施設の有効活用について
○ 木造を生かしつつ有効活用している事例について

【まとめ】既存の施設をどう改修していくか、どう新しい建物を建てるか、地域開放・利用をどのようにしていくか、複合化をどのようにしていくか、の4点がポイントとなる。
学校と地域が融合していくと共に、管理面で学校の負担を軽減する工夫も必要だ。

＜参加者アンケートより＞

○ 改築においては協議会の立ち上げ等がよく見られるが、耐震補強、大規模改修ではほとんど市町村教委単独で計画されていると思う。大規模改修にしても、住民を交え時間をかけて行われるべきだと気づきました。
○ 建設においては、児童生徒の意見が形となって残ると、学校が好きになり大切に使うことになると思います。卒業後も身近な存在となり、大人になっても利用するようになると思います。
○ 何でも新築しなくても既存の学校を改修、補強しながら大切に利用する心がけが必要。町の共有物・財産として気軽に利用できる方法を考えていきたい。

京都市セミナー報告

テーマ『地域交流の場を持つ学校づくり』

＜京都市の取り組み＞

明治時代に番組小学校が設立された頃より、地域の子どもたちは地域で育てるという意識が強く学校が核となった地域コミュニティ活動が活発に展開されてきた。学校コミュニティプラザ事業、学校ふれあいサロン事業等により地域施設としての開放や、子どもと大人のふれあい授業、大人のための生涯学習、土日の子どもの居場所づくり等が行われている。

＜意見交換会での主な意見＞

○ 京都市の「生涯学習フェスティバル」の活動内容とその他の京都市の取り組みについて
○ 耐震化の推進など今後の学校施設整備のあり方について
○ 学校と地域との連携施設の取り組みに関する各市の状況について
○ 学校の地域開放と児童生徒の安全確保について、双方をどのように解決していくか
○ 建築の立場から、学校施設の安全管理の取り組みについて
○ 学校での少子化、地域での高齢化に対応した余裕教室の活用事例
○ 既存の学校施設を改修する時、どのような補助金があるか
○ 建築家として地域密着型の学校を設計する時に、計画の段階から地域の方が関わった場合に、その後の展開にどのような違いが出てくるか
○ 学校施設の改修の他、維持管理に地域の協力をどのように得ていくか。また費用をどのように確保していくか
○ 文部科学省の大規模改造事業における補助対象額について

【まとめ】地域の重要な社会資本として学校を位置付け、その価値をどう高めていくかを考える必要がある。京都等では、地域の自主的管理等をうまく長く続けていく方法が学校に根付いていた。地域みんなで参加してやっていくのが大きなポイント。また環境への負担の低減も重要な課題である。持続可能な発展を合言葉に学校施設の有効活用に積極的に取り組んでいきたい。

＜参加者アンケートより＞

○ 地域と学校を結びつける人的資源としてのコーディネイターとその仕組みが必要。また市民の力を十二分に発揮できる、コーディネイトできる職員の育成も必要だと改めて感じました。
○ 地域により時代背景や地盤は違うが、計画・設計段階からの地域住民の参加により、運営する際にも力になってもらえるのだということがわかり参考になった。
○ 施設の維持管理のために必要なことを行わなければうまく使えないと思った。このことは施設面だけでなく、運営等のソフト面においてもいえることだと思う。

小田原市セミナー報告

テーマ『リニューアル整備計画に基づく学校づくり』

＜小田原市の取り組み＞

市内15小学校、12中学校、6幼稚園の多くが老朽化しており、小中各校の調査をもとにしたリニューアル整備計画を立て、計画的な改修を行っている。リニューアル整備計画の基本的な考え方は、①子どもが安心して学べる教育環境の整備、②ゆとりとうるおいのある教育環境の整備、③多様な教育内容に対応した教育環境の整備、④地域の核としての教育環境の整備。そのはじめてのモデルとして平成16年、白山中学校での改修が行われた。

＜意見交換会での主な意見＞

○ 小田原市の取り組みに関して
○ 他の都道府県・市町村の耐震化等への取り組み状況
○ 耐震化の推進等、今後の学校施設整備のあり方について
○ 生徒増で余裕教室がない場合に、オープンスペースの確保等、現代の教育内容に合った改修をどのように行っていくことができるのか
○ 防犯面を重視しながら、「開かれた学校」にするにはどうしたらよいか
○ 教職員等が「自分たちから変えていく」というユーザーからの視点になるにはどうしたらいいのか
○ デンマークの事例紹介。100年前の建物を有効に利用する手法について
○ 地域全体の資本といえる学校を地域住民と連携し、知恵を出し合い、よいものにしていくことの必要性について

【まとめ】耐震補強だけではなく併せて機能更新することが大きな課題。学習の場が地域に出るということもはじまっている。みんなで知恵を出し合い、学校の社会化、地域化を目標に、地域の方と連携して頑張りましょう。

＜参加者アンケートより＞

○ 既存の先入観にとらわれすぎずに様々な方法でスペースを利用することが施設の有効活用につながると感じました。
○ 財政事情が厳しいからこそ、建物の維持保全を計画的に進めることが必要である。
○ 全国の学校施設に携わる人々と意見交換をする中で、学校施設について共通の課題を抱えていることを認識しました。
○ 学校施設の開放を徹底的に視野に入れた取り組みができると実感しました。学校を開放すると安全性に問題が発生すると考えていましたが、出入り口を分けたりスペースを限定する等の工夫さえすれば、目玉となる事業として展開できると感じました。